

学生の皆様、保護者の皆様、教職員の皆様

令和2年9月14日

学長 野村 陽子

コロナ共存時代の本学の方針について

本年度の前期授業期間は、新型コロナウイルス感染症対策の必要性から通常の授業を遠隔中心とし、また大学施設の利用制限などを行ってきました。学生の皆様は思い描いていた学生生活が送れず、つらい期間であったと思います。また保護者の皆様におかれましては、様々な側面から学生を支援していただいたことに、心から感謝申し上げます。

現在も新型コロナウイルスの発生は続いています。第二波のウイルスは東京型・埼玉型に変異しているとの見解が示されており、また、収束までに数年を要するとも言われていること、そして社会全体の動きも感染防止対策を万全に行いながら日常の生活を取り戻す方向になってきています。

このような状況から、本学はコロナと共存した教育体制を模索することといたしました。別表*のように本学は“新型コロナウイルス感染拡大防止のための名寄市立大学の行動指針”を策定しており、これまでは「レベル1」としていましたが、コロナと共存する「レベル0.5」を新たに設け、可能な限り対面授業を多く行うことや大学施設の利用制限を大幅に緩和することといたしました。

コロナ共存時代の重要なポイントは、大学に集う学生、教職員、関係者の方々が感染症の拡大を防ぐために、マスク着用の徹底と手洗いの励行など個人が感染予防をしっかりと行っていたり、自己の健康管理に気を配っていただくことです。そのうえで、大学としては3密防止や換気の徹底など環境の整備に万全を期す所存です。

このような対策を整えた上で、行動指針レベル0.5に移行したいと考えています。レベル0.5とする時期は、後期授業開始後の2週間は健康観察期間としますので、9月28日(月)に移行する予定です。

一方で、新型コロナウイルスの感染が収束している状況ではありませんので、大学での活動、そして学外活動が活発になれば、当然のことながら感染者が発生する可能性は高くなると推測しています。大学で感染者が発生した場合の対応については、保健所の指示や名寄市との緊密な連絡体制のもとに行っていくこととしていますが、レベル0.5にあっても感染予防の実施状況を確認しながら慎重に進めていきたいと考えております。

また、大学で発症者が出た場合に重要となることは、安心して治療が受けられ、また観察期間を過ごせるような体制づくりも必要と考えています。名寄市では感染者はでておりませんが、このような地域で感染者が出た場合に心配されることは、本人が過度な情報伝達にさらされたたり風評被害に合うことです。友人や身近な人が感染者となった場合には、まずは、感

染症がもたらす影響について正しい知識を学習して、ケアを学ぶ本学の学生として感染者を暖かく見守り支えあう姿勢をとっていただきたいと思います。

今年度は、コロナ禍、コロナと共存という目まぐるしく変化する情勢の中での学生生活となり、思い通りではなかったかと思いますが、5年後、10年後にそれぞれの職業に就きこの体験を冷静に振り返れる時期が来ましたら、この経験を思い出してください。ケアを必要とする人々への共感を深めることやケアの本質を考えることにつながっていくと思います。

今後、コロナとの共存時代がどのようなものになるか手探りですが、感染防止対策をとりつつ、学生にとって実りある大学生活となるよう、皆様の協力を得て進めていきたいと考えております。この大学にいてよかったと思えるように、大学の教職員一同で頑張っていきたいと思っておりますので、今度とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

* 行動指針:大学ホームページ参照